

「農業高校への注目や期待が高まる中、 クラブ員が自覚をもって応えるためには どんな活動が必要か」

クラブ員代表者会議 関東ブロック連盟 山梨県立農林高等学校
食品科学科 3年 石井 優香
システム園芸科 2年 佐竹 花嶺
森林科学科 1年 赤池 桜空

1. はじめに

関東ブロック連盟は東京、群馬、栃木、茨城、埼玉、千葉、神奈川、静岡、山梨からなる79クラブ、約2万人規模（定時制含む）のブロックです。山梨県は果樹栽培を中心とする農業立県として知られていますが、県の規模が小さいため、県連盟は笛吹高校、北杜高校、そして農林高校の計3クラブ、700名弱のクラブ員数であり全国的にも少ないです。

本年度は笛吹高校が県連盟事務局を務め、山梨県で8月に開催された関東ブロック大会を運営するにあたり、3校が一丸となって準備を進め無事成功させることができました。また収穫祭である、笛吹高校の「ふれあいフェスタ笛吹」、北杜高校の「フェスタ杜のきらめき」、農林高校の「収穫感謝祭」において農産物や加工品の販売を行い、地域に必要とされる学校となっています。

農林高校は、創立114年の農業を学ぶ県内唯一の専門高校として、システム園芸、森林科学、環境土木、造園緑地、食品科学の5つの学科で構成されています。また、本校の農業クラブ活動は地域に根ざした学校づくりを目指し、幅広い年齢層との交流を意識して日々活動に積極的に取り組んでいます。

2. クラブ員としての自覚・自信を持つこと（農林高校生が抱える課題）

私たちは農業高校で学んではいますが授業以外での農業の経験は少なく、入学前は農業未経験者が多いため、農業の魅力を経験したことがあまりないのが現状です。また、授業で農家の高齢化や後継者不足などの地域の現状に直接触れる機会も少ないです。そのため、農業に対する目的意識が低く、最初のうちは農業に取り組む意欲がそれほどない人が、特に関連産業学科には多い傾向があります。

生徒がクラブ員としての自覚を持つためには農業高校に入学した時点で自動的にクラブ員になるということと、農業クラブ活動は授業の延長線上にあるということを理解することからだと思います。そのために農業クラブの3大目標である「科学性、社会性、指導性」からぶれない活動を私たち本会役員が企画する必要があります。活動を通して反省し振り返りをする上で今回やったこの活動は3大目標のどれに当てはまるかを確認し、その都度理解していくことが大事だと考えます。今回のテーマについて考えることは、本校クラブ員の在り方を改めて見直す機会だと感じています。そこで本校の活動状況を紹介し、全クラブ員に実施したアンケート結果から見えてきたものを報告します。

3. 単位クラブの活動状況

(1) クラブ員対象の活動

農業高校には普通高校とは違い、プロジェクト活動や意見発表、農業鑑定競技などへの取り組みや各種大会参加など、日々の授業の延長線上に自らの技術や知識を試す場があります。そこでクラブ員全員が自覚をもって活動に取り組めるよう、農業クラブ本会役員がその都度説明会を実施しています。

① 「新入生オリエンテーション」

4月上旬、新入生を対象に農業クラブの目標、組織、意見発表会、プロジェクト発表会、農業鑑定競技、県連行事などについての説明

② 「農業クラブ総会」

4月下旬、前年度活動の反省、今年度活動方針・活動計画などについての協議・承認

③ 「FFJ環境調査説明会」

4月下旬、目的、調査のやり方、タンポポの見分け方、個人調査票の書き方などを、日連の資料を使用して説明

④ 「農業鑑定競技学習会」

4月下旬、出題範囲と出題方法、先輩の学習方法紹介、クイズ形式の模擬問題、学習用ノート・ファイルの配布

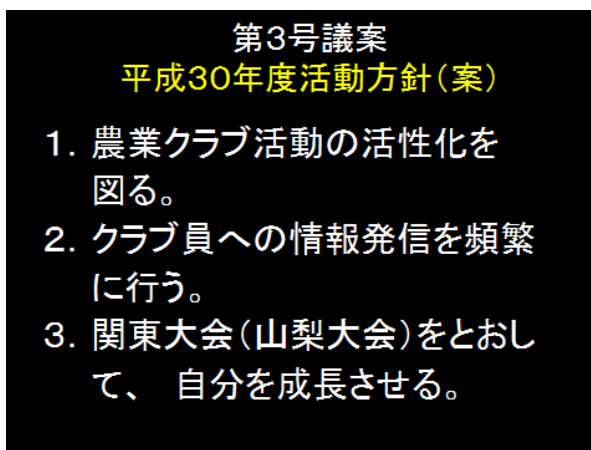
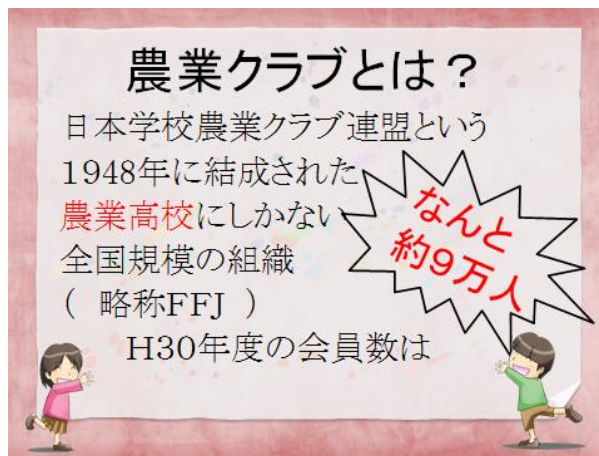
本校では、1学期の定期考査期間に2回（5・7月）、学科ごとに鑑定競技を実施し、県大会出場選手を選考

⑤ 「意見発表原稿作成説明会」

2月に1・2年生対象、3分野の説明、課題や解決方法を見つけるためのワークシート記入、原稿用紙の使い方、全国大会最優秀発表の視聴による発表方法の確認

これらの説明会では、内容を分かりやすく伝えるために本会役員が作成したパワーポイントや資料を使いながら説明します。さらに、行事終了後はその様子を伝えたり、次回の行事に関する情報など、クラス掲示用の「農ク速報」で情報発信しています。その他のものとしては、農林高校新聞（年3回発行）中の農クコーナー、生徒会誌中の農クページ、県連機関誌「FFJ 山梨」などの冊子があります。

また今年8月に開催した関東大会に向け、6月の県大会ではプレ大会の形で関東大会



農業鑑定のまとめ

- 農業鑑定は日々の授業で学んでいることが出題されるので、授業をしっかりと受けていれば誰でも高得点を狙える。
- 全国大会で優秀な成績をおさめれば、関係の大学や就職先へのアピールになる。
- しかし、全国大会へ行くことばかりが全てではない。農業鑑定の勉強を通じて、知識だけではないものを得ることができれば、それは確実に自分のためになる。

当日の担当係の仕事をやってみました。また関東ブロックの参加者に心からのおもてなしをするために、7月に全校生徒対象の礼法指導（マナーアップ講習）を本会役員が講師となって行いました。あいさつの言葉や礼の仕方など、実際に声を出したりお辞儀をしたりして確認しました。その成果があったのか、それぞれがクラブ員の自覚を持って、本番では無事に仕事を終えることができたと思います。

（2）本会役員が中心に実施する活動

本校では30年以上前から地域の支援学校高等部生徒との交流活動を年2回行っており、6月に本校水田でのお田植え、12月には収穫した餅米で餅つきと会食を支援学校で行っています。また4年前から「地域特産品を使った地元高齢者との交流活動」とそれに伴う地域のお祭りへの参加や生産

農家訪問、特産品に関する意識調査などの体験型・参加型の活動に取り組んでいます。このような活動を通して地域との繋がりを大切にする気持ちを培っています。いずれも本会役員が自主的で能動的に活動しなければ意味がありません。役員の内自覚と意識を高めるためには、毎週水曜日の定例会議やラインによる連絡の徹底が効果を上げていると思います。また年間4回、県連3校の役員が集まり「理事・顧問教師の会」を開いて県連行事の運営、振り返り、改善などを話し合います。特に第1回の会では、教育委員会高校教育課の農業科担当の先生が農業クラブ活動をするにあたっての講義をしてくれ、役員としての心構えを養成することができます。どの活動も、共に交流をする方々に喜んでいただき、より良いものにするために試行錯誤を繰り返しながら今の基盤を作り上げてきました。そして何よりも自覚・自信を持つために必要なことは失敗を経験することだと感じました。目標を持たずトップダウンで指示を待つのではなく、失敗を恐れずに目標を成し遂げたものだけがその達成感を味わい、達成しやり遂げたものこそが自信に繋がるのだと思いました。

4. アンケート結果（抜粋）

（1）プロジェクト活動、意見発表、農業鑑定競技への取り組み意識や関心について思っていること。

- ・自分が疑問に思ったことをまとめて発表する機会があることで、授業への取り組み方が変わった。
- ・いろいろな人の思いを知ることでこれからの農業のことを考えるよい機会になっている。
- ・互いに意見や考えを交換し合い、個々の意見を尊重しあえる場所である。
- ・同じ年齢でも農業についてちゃんとした自分の意見を持っていることを知り、新たな考え方や発見の場になっている。
- ・同じ高校生達がこんなにも農業に熱意を持っていていいなと思った。

新入生オリエンテーション」で、農業クラブの活動を紹介してきました!!

4/18（金）4校時、体育館で、私たち農業クラブ役員は新入生に向け農業クラブの活動を紹介してきました。このオリエンテーションを通し、目標・組織形態・意見発表・観劇研究について説明しました。



役員紹介では役員制や農業クラブに入って良かったこと、今年の抱負などを話しました。



農業クラブについてスライドで説明しました。タンポポ研究会についても説明し、最後にFDJの旗を渡しました。早く1年生にも覚えてもらいたいです。（もちろん、3年生にも！）



今年は関東大会が山梨県で行われるので、生徒の皆さん、ご協力をお願いします。

<農業クラブ本会役員>

役職	氏名	学年	所属	役職	氏名	学年	所属
会長	石井 新吾	食品科2年	副会長	菅原基	佐藤 智門	食品科2年	3年
副会長	藤原 利康	食品科2年	副会長	坂本 共成	高住拓也	食品科2年	3年
書記	森田 新入	食品科2年	書記	菅原基	藤本 健二	食品科2年	3年
書記	栗田 和	食品科2年	書記	菅原基	佐竹 花南	食品科2年	2年
書記	川口 幸希	食品科2年	書記	菅原基	大友 実樹	食品科2年	2年
書記	藤原 雅太	食品科2年	書記	菅原基	水上 永成	食品科2年	2年
書記	安藤 佳希	食品科2年	書記	菅原基	片岡 京	食品科2年	2年
書記	藤原 孝花	食品科2年	書記	菅原基	志保 悠哉	食品科2年	1年

今年度も農業クラブの活動を活発に



行っていきたくて考えています!!

☆次回農ク活動4月28日「農ク総会」☆

○農業クラブ総会 … 今年度の行事や予算について発表します。

質問や意見を出してください。

○学科別意見発表 … 今年は関東大会が山梨県で開催されるため、時間が早まりました。発表者は堂々と言い、聞く人は真摯に耳を傾けよう!!

・農業鑑定競技は自分にどれだけ農業の知識が身についたか試す場になっている。

(2) 農業クラブ活動を実際にやってみて、心境の変化はありましたか。

- ・収穫祭を通して地域の人に野菜や果物、お花や樹木を手にとってもらえる喜びを感じることができた。
- ・農業へのイメージが明るくなった。
- ・農業について考える機会が増え、専門教科を学ぶ意識が変わった。また実生活でも専門知識が無駄になることはなく、生きるために必要な知識だと感じるようになった。
- ・簡単だと思っていたけれど大変なことばかりで、農作物を育てている農家さんへの尊敬がわいてきた。
- ・自分と違う意見や今まで考えなかった物の見方等が経験できて、物事を前より調べ考える機会が増えた。
- ・幅広い人との交流が持てるようになった。

(3) 農業高校に入学して変化したことや、影響を受けたことは何ですか。

- ・命の大切さを学び、感謝することが増えた。
- ・農業初心者だったが、以前より農業を身近に感じるようになり、知識・技術も自然とつくようになった。また新たな発見や、知ること・学ぶことが多くあり楽しいと感じるようになった。
- ・自然に触れる機会が増え植物や自然の魅力を感じるようになり、実際に農業をやってみたいと思うようになった。

5. 今後どんな活動が必要か。

私たちはアンケート結果からクラブ員一人一人が日々の学習や農業クラブ活動を通して良い刺激を受け、農業への魅力を感じ、より専門授業に対しての取り組み意識が向上していることが分かりました。また4年前から始めた地域交流活動が評価され、昨年度は山人会賞*受賞や地域の補助事業に認定される等で校外からの期待も大きいと感じています。そんな中、一過性ではなく継続性のある活動にしていくためにできる限り多くの人に共有・共感してもらい、地域から認識され理解される活動をしていくべきではないかと感じています。また、周囲からの評価が私たちの自信や取り組みへのモチベーションにつながっています。今後はネット社会と呼ばれる現代に合った活動を検討するべきだと考えます。その一つとしてSNSなどのメディアを活用した広報活動があげられます。今は共有の時代です。今後、クラブ員が自覚をもって多くの人に共感される活動をしていくためには、活動を通して感じた魅力や影響を積極的に情報発信し、共有することだと思います。注目や期待に応えるためにいい評価も悪い評価も恐れず受けて、失敗も経験しながら1つずつやり遂げていくことがよいのではないかと思います。

*山梨県内の小・中・高校生で、文芸・科学・音楽・芸能・語学などの課目や社会環境との関わりの中で過去1年間にめざましい成果を取った学校および地域のグループが対象

農業クラブと一緒に 活動してみませんか

農業クラブとは全国の農業高校が集まってできた組織のことで、農業クラブ役員は地域交流活動や大会の運営などを行っています。



本館3階の農業クラブ室で週1回(主に水曜日)定期的に行っている打合会有るので、興味のある人は来てみてください!!